

出穂は平年より3日程早いと見込まれます。穂肥の準備を急ぎましょう!!
斑点米カメムシ類注意報発表！畦畔・農道の草刈りの徹底を!!

生育概況(普及課生育診断ほ6月28日現在)

平坦部 (川西町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
はえぬき	本年	50.7	750	9.2	44.6
	前年	39.1	566	8.4	42.4
	平年	42.0	579	8.6	42.1
	平年比・差	121%	130%	0.6	2.5

平坦部 (飯豊町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
はえぬき	本年	52.8	477	9.9	42.9
	前年	38.0	559	8.3	43.1
	平年	47.8	487	9.4	43.6
	平年比・差	110%	98%	0.5	-0.7

平坦部 (川西町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
つや姫	本年	52.0	573	9.1	42.2
	前年	32.4	502	7.9	40.7
	平年	40.2	500	8.4	42.1
	平年比・差	129%	115%	0.7	0.1

平坦部 (飯豊町)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (SPAD)	
つや姫	本年	52.4	488	9.8	44.1
	前年	35.3	440	7.7	39.4
	平年	45.5	482	8.7	41.3
	平年比・差	115%	101%	1.1	2.8

幼穂の発育からみた予想出穂期(7月3日現在)

品種名	場所	予想出穂期	平年出穂期	平年差
あきたこまち	山形市みのりが丘	7月29日	7月31日	-2
	鶴岡市藤島	7月27日	7月30日	-3
はえぬき	山形市みのりが丘	8月1日	8月4日	-3
	鶴岡市藤島	-	8月5日	-

- : 7月3日現在で未調査

【概況】

移植時期から続く良好な天候により「草丈:長い」「茎数:平年並み~多い」「葉数:多い」「葉色:平年並み~濃い」状況で経過しています。

当面の対策

(1) 斑点米カメムシ類対策 ~ 斑点米カメムシ類注意報発表 ~

7月4日に県病害虫防除所より斑点米カメムシ類注意報が発表されました。本年の斑点米カメムシ類の発生量は過去10年で最も多くなっています。イネ科雑草が繁茂している畦畔、農道周辺では発生が多くなりやすいので、畦畔及び農道等の草刈りを地域ぐるみで徹底し、カメムシ類の生息密度低下に努めましょう。また、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は斑点米カメムシ類の水田侵入・増殖を促します。水田内の残草処理も徹底しましょう。

【表 畦畔・農道のすくい取り調査結果】

置賜地域、7月前半	確認地点率(%)	
	本年	平年
アカスジカスミカメ	87.5	16.3
アカヒゲホソミドリカスミカメ	75.0	56.3
オオトゲシラホシカメムシ	50.0	30.0

(2) 水管理 ~ 生育量に応じて確実に中干しを実施しましょう! ~

無効分げつの抑制と根の活力向上を図るため、中干しを行っていないところは、直ちに実施しましょう。また、生育量が大きい場合や、葉色が標準より濃い場合などは長めに行い、生育量が小さく、葉色がさめかかっている場合は短めの中干しとします。また、効率的な水管理を行うため、作溝とセットで中干しを行います。

(3) 葉いもち対策 ~ 今後の葉いもち発生に注意しましょう! ~

6月18日に本田で葉いもちの発生が確認されています。また、発生予察情報では、「平年並み」の発生と予想されています。圃場をよく見回り、早期発見、早期防除を徹底しましょう。

(4) 品種別穂肥の目安

幼穂の発育状況から予想される出穂時期は、平年より3日程早いと予想されます。しかし、現在、茎数が平年並み~多く、葉色が平年並み~濃いことから、穂肥診断を行い、適期に適量の穂肥を施用しましょう。

通常の化成肥料を使用する場合

品種名	出穂期(平年)	出穂期(本年予想)	穂肥のタイミング	穂肥時期の目安	施肥量(N成分量)/10a
ヒメノモチ	8月1日	7月29日	出穂25日前	7月4日	2.0
はえぬき	8月7日	8月4日	出穂25日前	7月10日	1.0~2.0
コシヒカリ	8月13日	8月10日	出穂18~15日前	7月23~26日	1.0~1.5

有機質肥料を使用する場合は、通常の化成肥料に比べ5日程度早めに(下表のとおり)施用しましょう。

品種名	出穂期(平年)	出穂期(本年予想)	穂肥のタイミング	穂肥時期の目安	施肥量(N成分量)/10a
つや姫	8月13日	8月10日	出穂30~25日前	7月11~16日	1.0~1.5

「つや姫」の穂肥診断(7月10日頃)

【適正域】

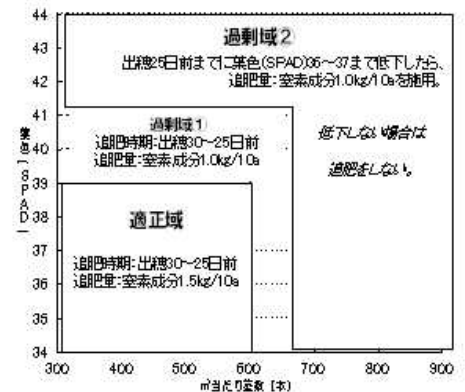
追肥は、出穂30~25日前、窒素成分1.5kg/10aを基本
追肥時の適正な葉色は、葉緑素計(SPAD)で39以下、葉色板で5より淡い

【過剰域】

茎数が600~650本/m²、または、葉色39~41の場合は窒素成分を減らして出穂30~25日前に1.0kg/10aを施用

【過剰域】

茎数が650本/m²以上、または、葉色が41以上の場合、出穂前25日ころまで葉色が36~37に低下したら窒素成分を減らして1.0kg/10aの施用とする。葉色が低下しない場合は追肥を控える。

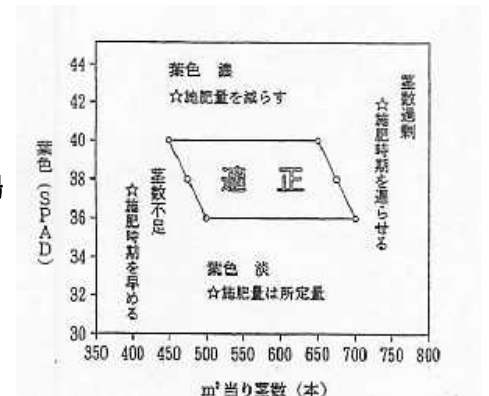


「はえぬき」の穂肥診断(7月10日頃)

茎数と葉色が適正内であれば、追肥は、出穂25日前、窒素成分2.0kg/10aを基本

7月10日の茎数が650本/m²以上、または、葉色が40以上の場合、窒素成分を減らして1.0kg/10aの施用とする。葉色が低下しない場合は追肥を控える。

茎数が450本/m²以下の場合、追肥時期を早めて対応する。



「コシヒカリ」の穂肥診断(7月20日頃)

追肥は、出穂18~15日前、窒素成分1.0~1.5kg/10aを基本

倒伏程度が2以下(倒伏程度0~4評価)となる生育量の目安

葉色(SPAD)	草丈(cm)	× 茎数(本/m ²)	
41以下	70	× 470	} 以下
	75	× 440	
	80	× 410	

倒伏が懸念される場合は、減肥(ムラ直し)するか、追肥しない。



刈払い機による草刈作業の際には、作業中止の合図を決めて、お互いの機械が止まったことを確認してから近づくようにしましょう。